



# 年間予定 平成30(2018)年度

詳細は、当館ウェブサイト、チラシ、市民しんぶんなどで順次お知らせします。

学校歴史博物館 検索

## 展示

催し ※参加申込が必要です。

### 明治150年記念

企画展 4月28日(土)~6月19日(火)

京都画壇の明治

企画展 6月23日(土)~10月1日(月)

京都の学校史をたどる

—2014~2017年度 新収蔵品展 小学校編—

特別展 10月6日(土)~12月11日(火)

明治150年・開館20周年記念 創造美術の画家(仮)

<同時開催>近代京都の画家(仮)

—国画創作協会と上村松園を中心に—

企画展 12月15日(土)~平成31年3月31日(日)

京都の学校史をたどる

—2014~2017年度 新収蔵品展 中等教育編—

子ども体験教室(小学生対象)

#### 夏の子ども体験教室

- 明治の小学校 書写教室
- 博物館たんけんたい
- おもちゃの手作り教室
- にほん画に挑戦!

#### 冬の親子体験教室

凧づくりに挑戦!

#### 春の子ども体験教室

詳細は後日決定

企画展関連講演会

#### 明治150年記念

連続講演会「京都画壇の明治」

A 5/20(日) 谷口香嶠と近代京都の「歴史画」  
講師:藤本 真名美 氏(和歌山県立近代美術館 学芸員)

B 5/26(土) 「日出新聞」記者  
金子静枝の奮闘の生涯  
講師:竹居 明男 氏(同志社大学 名誉教授)

C 6/2(土) どんなひとがいたの?  
明治の京都画壇—流派と個性—  
講師:森 光彦(当館 学芸員)

D 6/10(日) いま、明治の日本画が熱い理由  
講師:田島 達也 氏(京都市立芸術大学 教授)

E 6/17(日) 近代京都の日本画史入門—明治期を中心に—  
講師:植田 彩芳子 氏(京都文化博物館 学芸員)

教室・講座(一般対象)

第3[火]午後2時-3時(8月を除く)  
上村淳之館長談話室

[月]午後2時-4時  
唱歌・童謡教室

[火]午前10時-12時30分  
日本画教室(火曜・午前)

[火]午後2時-4時30分  
日本画教室(火曜・午後)

[木]午後2時-4時  
はじめてみよう!楽しい合唱教室 **NEW**

[金]午前10時-11時30分  
古文書を読む(9月・11月・2月に開講)

[金]午後2時-4時30分  
描いてみよう!日本画

2月頃開催予定  
日本刺繍教室

以上の他に、各企画展にちなんだ講演会を随時開催いたします。  
詳しくは当館ホームページ・チラシ等にてご確認ください。



京都市学校歴史博物館だより

# 学歴博しんぶん



Vol. 34

発行:平成30年3月  
京都市学校歴史博物館



## 今年、歴博は開館20周年を迎えます これまでのあゆみを『20年の彩り』と題し、一冊にまとめました

京都市学校歴史博物館は、元番組小学校の一つである開智小学校の跡地を活用し、平成10年11月に開館して以来、町衆をはじめとする明治の先人たちの、「まちづくりは人づくりから」の信念と、学校の運営に係る費用の一部を町衆自身が負担する「産金(かまどきん)」の精神を伝え、のべ30万人を超える市民・観光客の皆様方の生涯学習や、子どもたちの学習活動の場として歩んできました。

このたび、開館20周年を迎えるにあたり、全国をリードする京都の教育の系譜を広く発信することを目的に、過去20年の学校歴史博物館のあゆみを振り返る冊子『20年の彩り』を発行しました。

本書を通じ、地域と学校がともに育ててきた人づくりの系譜を多くの方々にご覧いただき、また開館20周年、来年の番組小学校創設150周年に向けて機運を高めていきたいと考えています。

(事務局長:萩原 裕司)



## 京都市学校歴史博物館

〒600-8044

京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町437

TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327

http://kyo-gakurehaku.jp/

✉ rekihaku-jigyoku@edu.city.kyoto.jp

当館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる博物館です。正門・石塀は、国登録有形文化財。



開館時間 午前9時 - 午後5時(入館は4時30分まで)

休館日 水曜日(祝日の場合は翌平日)、12月28日 - 1月4日

入館料 一般200円(160円)、小・中・高生100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金

※京都市内の小・中学生は土・日曜日の入館無料

交通案内

- ◆ 阪急電車「河原町」下車 徒歩約10分 10番出口より南西へ
- ◆ 地下鉄烏丸線「四条」下車 徒歩約12分 5番出口より東へ
- ◆ 京阪電車「祇園四条」下車 徒歩約15分 3番出口より南西へ
- ◆ 市バス「四条河原町」下車 徒歩約10分 南西へ
- ◆ 市バス「河原町松原」下車 徒歩約5分 北西へ

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



※正門(御幸町通側)からお入り下さい。

春の企画展

### 明治150年記念 京都画壇の明治

会期:平成30(2018)年4月28日(土)~6月19日(火)

前期 4月28日(土)~5月15日(火)

中期 5月17日(木)~6月5日(火)

後期 6月7日(木)~6月19日(火)

平成30(2018)年は明治元(1868)年から数えて150年という節目に当たります。学校歴史博物館ではこれを機に、明治期の京都画壇を振り返ります。

京都では、幕末の動乱で荒廃した町の復興を目指すことから、明治という時代が始まっていきました。日本画の世界においても、衰退の危機にあった画壇を復興させるため、新時代の画家たちは新しい絵画表現を模索します。

本展では、明治前中期における、代表的な画家の作品を展示し、近代京都画壇の源流を一堂に総覧します。

(学芸員:森 光彦)



幸野樸嶺 江月雙鴨図(部分)  
明治20年代 敦賀市立博物館蔵



幸野樸嶺 敗荷簞書図  
明治20年代 敦賀市立博物館蔵

夏の企画展

### 明治150年 京都の学校史をたどる

—2014~2017年度 新収蔵品展 小学校編—

6月23日(土)~10月1日(月)

学校に関する史料は、学校にあるものがすべてではありません。むしろ、個人が大切に保管してきた日記や写真の方が、学校のリアルな姿を映し出すことがあります。本展は、この「学校にはなかった学校関係史料」で、京都の小学校史を振り返ります。

前回の新収蔵品展「小学校の戦前・戦中・戦後—2011-2013年度新収蔵品展—」の開催から、すでに4年が経とうとしています。この間に新しく寄贈いただいた史料は、約4000点です。そのうち、展示できるのはごく一部ですが、とても見応えのある企画展になりそうです。

(学芸員:和崎 光太郎)



3年生の遠足(平等院) 昭和28(1953)年 京都市立朱雀第八小学校

# 企画展「近代日本の道德教育」展示図録を発行いたしました

よく、「戦前の道德教育は～」とか、「修身は～」(※注)とか言われますが、「戦前の道德教育」も「修身」も一括りで論じられるような単純なものではありません。例えば、明治前期と後期とは全く異なりますし、明治後期と昭和初期でもかなり異なります(そもそも明治前期と昭和初期ではこの国の姿自体がまったくの別モノです)。しかし、近代日本の道德教育の複雑なあゆみを手軽に学べる入門書は、これまで刊行されたことがなかったように思われます。

そこで、この『図録 近代日本の道德教育』は単なるカタログ的な図録ではなく、解説を工夫し、コラムをつけることで、通史や入門書として読めるようにしました。一方で、より詳しい解説が必要などころには注釈をつけ、巻末には「主な参考文献一覧」と「索引」をつけましたので、大学生や歴史愛好家にもおすすめです。

※注…修身科は、明治期から昭和20(1945)年末まで小学校で実施された徳育教科です。(学芸員:和崎 光太郎)



\*\*\*書籍・歴博グッズの販売は郵送でも承ります\*\*\*

以下の項目を明記いただき、商品代金分の郵便小為替と併せて当館までお送りください(郵便小為替は各郵便局にてお買い求めいただけます)。

- ①氏名 ②住所 ③電話番号 ④商品名 ⑤数量

『図録 近代日本の道德教育』  
A4サイズ・73ページ(フルカラー) 500円(税込)  
平成30年3月2日より当館にて販売中

## 春の企画展

# 「明治150年記念 京都画壇の明治」名品コレクション

企画展「明治150年記念 京都画壇の明治」に出品される作品のうち、2点を紹介します。



図1 鈴木松年 鬼の念仏・座頭 個人蔵

《鬼の念仏・座頭》(図1)は、豪腕・大胆な筆さばきで知られた鈴木松年によって描かれた作品です。普段は人々に恐れられている存在の鬼が、念仏を唱えて歩くという面白い画題で、手には奉衣帳(寄付に関する帳面)や仏具である鐘を持ち、僧衣をまとうて鬼がお坊さんの格好をしているというギャップが表されています。この画題は江戸時代から、子どもの夜泣き止めのためのお守りとして大津絵などでよく描かれてきました。また本作で同じ画面に描かれている「座頭と犬」は旅行中の怪我防止のお守りとしても知られた画題でした。庶民の土産物であった大津絵では、「鬼の念仏」は可愛らしく描かれるのですが、本作では鬼の表情や筋肉が写実的に表され、鈴木松年ならではの迫力満点の絵画となっています。

《甲斐駒図》(図2)は明治10年代に、岸派の画家、岸竹堂によって描かれた作品です。岸派は代々、動物表現を得意とした流派で、竹堂もまた生涯動物を描くことを探究しました。本作では、群馬という伝統的な画題でありながら、馬の表現には西洋画の陰影表現の影響を感じさせるなど、文明開化の世の中に生きた竹堂ならではの、新しい動物表現への挑戦が見て取れます。

※これらの企画展出品作が掲載された展示会図録を販売予定です。

販売開始:4月28日(予定)。価格1,000円。当館受付にて。

図2 岸竹堂 甲斐駒図  
明治10年代後半 滋賀県立近代美術館蔵



## 予告 明治150年・開館20周年記念 秋の特別展

会期:平成30(2018)年10月6日(土)～12月11日(火)

平成30(2018)年は、京都市学校歴史博物館開館20周年に当たります。これを記念して、当館では京都で活躍した画家団体に注目した特別展を行います。ひとつは大正期に結成された国画創作協会、もうひとつは戦後に結成された創造美術です。

近代京都画壇の歴史を形作ってきたのは、画家たちのたゆまぬ創作への情熱でした。いつの時代も画家たちは日本画の革新を目指し、時には志をともにする者たちが集まり、団体を結成してきました。国画創作協会と創造美術というふたつの団体、そこで描かれた作品を振り返ることで、京都画壇に通底する「時代を革新する力」を見直します。

さらに、これら京都画壇の先人として、上村松園の作品もあわせて展示します。松園は学校歴史博物館の元の建物である開智小学校出身です。本特別展にあわせて、開智出身の松園の画業を今一度振り返ります。

(学芸員:森 光彦)



梅原紫峰 《梅に雀》 錦林小学校蔵



秋野不矩 《青年》 昭和31年 元日影小学校蔵

## 新教室 はじめてみよう!楽しい合唱教室

【指導】山口 陽子 先生

合唱の楽しさはみんなと心を合わせて歌う所にあり、ハーモニーや醍醐味を味わえることが大きな魅力です。曲が持っている良さを表現追求していくこと自体が楽しい活動で、歌う人の心を豊かにしてくれます。年を重ねても、いつまでも体全体を使って声を出し、思いを込めて楽しく歌いましょう。合唱を通して「健康長寿」生涯現役を目指しましょう。



【伴奏】柿木 朋子 先生

皆様初めまして。ピアニストの柿木朋子と申します。宜しくお願ひ申し上げます。合唱とは、大人数で声を重ね合わせて作られる音楽です。人の声だけで出来るオーケストラとでも言えるでしょうか。皆様で丸となって作る音楽を今年も楽しみたいと思います。また、一年間しっかり歌っていただくことにより、皆様のお顔の筋肉がぐぐぐと上がっていく様をピアノの場所から楽しみに拝見させていただきます!



## 唱歌・童謡教室

【指導】西村 敬子 先生

昨年の秋(10月)の講座から、唱歌・童謡教室の講師をさせていただくことになりました、西村敬子です。どうぞ宜しくお願い致します。唱歌の原点から、皆さんと一緒に楽しく学んでいきたいと思っています。最近では学校の教科書に、オペラ・歌曲・演歌・歌謡曲・フォークソング等、様々な曲を学ぶ時代となってきました。今までの唱歌・童謡をいつまでも大切に歌い続けながら、幅広い曲を選曲しようと思っています。歌うことで健康を保ち、明るく元気に過ごしていただくことを願っています。



【伴奏】山口 敦子 先生

1年6講座、月曜日に皆様の元気で若々しい歌声に支えられ、又講師の西村先生から歌の背景などを教わる度に、次世代に歌い継がれる事を願ひながらピアノに向かっております。皆様と一緒に演奏していると、小学校の頃、教室にあったオルガンを弾きながら「紅葉」や「故郷」をクラスの皆で歌った事がよみがえって、胸が熱くなります。歌う事は、身体も心も元気になるので、その証にお帰りになる時、皆様の足どりがとても軽やかになっておられるような気がします。これからも四季折々の名歌を、皆様と一緒に楽しく演奏していきたいです。

